

令和 3 年度 県立荃崎高等学校自己評価表

目指す学校像	社会人として求められる基礎学力及び生活習慣を身に付けさせるとともに、自己の将来を見据えた職業観、勤労観に基づく進路実現を支援し、豊かな人間性を備えた社会人の育成に努める。 1 生徒・教職員、共に学び合う学校 2 生徒・教職員の信頼関係が構築された学校 3 懇切丁寧な指導・きめ細かな指導を実践する学校 4 一人ひとりの個性に応じた多様な進路実現が図れる学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<成果> ①学習指導の工夫・改善により、生徒の基礎学力が向上し、学び直したいという意欲を持つ生徒が増加している。 ②基本的な生活習慣が身に付いていない規範意識に欠ける等の生徒は徐々に減りつつあり、落ち着いた学校生活を過ごせるようになった。 ③生徒の能力・適性等に応じて、四大・短大・専門学校進学から就職まで多様な進路実現に対応している。 ④三部制定時制単位制高等学校の特徴を広く周知したことにより、地域や近隣中学校における本校に対する評価が改善・向上しており、特別な支援を要する生徒に係る引き継ぎについても中学校の理解が進んだ。 ⑤教職員の勤務時間を把握することができた。 <課題> ①基礎的・基本的な学習内容の理解が十分でない生徒が少なくなく、生徒間の学力の差も大きいため、生徒の学び直しを丁寧に支援する。加えて、個に応じた発展的学びに対応する指導を充実させる。 ②人間関係を築くのが得意でない生徒が多く、教育相談機能等の効果的な運用により、豊かな人間関係づくりを支援する。 ③キャリア教育を充実させ、生徒の進路意識の向上を図るとともに、多様な進路実現に組織的に対応できるよう、就労支援も含めて体制を整える必要がある。 ④学校公開（授業公開等）や、地域や近隣中学校との交流を推進することにより、本校に対する理解を深め、連携を更に進める。 ⑤基準を超える超過勤務の解消に向けて、校務の精選や業務の割振りの見直しを行う。	1 基礎学力の向上を図る	ア 授業を積極的に公開して学習指導の工夫・改善を図り、生徒が主体的に学習に取り組める授業を実践する。 イ 少人数授業、T T 授業、ファーストステップ授業などの個の能力に応じた学習指導を実践し、BYOD で持ち込まれた機器を効果的に活用しながら、生徒の学びの質を向上させる。 ウ 授業の中で自分の考えを書く時間を積極的に設け、文章力の向上を図る。	A
	2 学びの場としての環境作りに取り組む	ア ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業を展開する。 イ スクールカウンセラーやキャンパスエイドの支援を得て、教育相談機能を充実させ、望ましい人間関係を構築しながら、安心して登校し学べる環境を醸成する。 ウ 通級指導の活用などにより、生徒の実生活や授業等での困り感の軽減を図る。 エ 図書館の整備により、生徒が読書や学習で利用しやすい環境を整える。	A
	3 基本的な生活習慣の確立を図る	ア 登下校指導や日常の声かけをととして、服装・頭髪等の身だしなみを正し、挨拶の励行に努める。 イ 遅刻・早退・欠席を少なくし、欠課時数の増加や生徒指導上の問題行動による退学者数を減らす。	B
	4 生命や人権を大切にす る態度を育成する	ア お互いを思いやり、尊重する態度を育成し、生徒相互の豊かな人間関係を築く。 イ いじめは、「人間として絶対に許されない」という意識を持たせる。	B
	5 進路指導の充実を図る	ア ロングホームルームや進路ガイダンスを充実させ、進路別見学会を実施し、進路情報の収集と提供により、進路意識の向上を図る。 イ 綿密な面談により、生徒や保護者の進路希望を把握し、進路指導の充実を図る。	A
	6 特別活動の充実と活性化を図る	ア 生徒の自主性を育みながら、生徒会活動を活性化し、部活動の充実を図る。 イ HR 活動を中心に、キャリア・パスポートを活用して学びを振り返るとともに、将来への見通しを持たせる。	A
	7 フレックススクールと しての特徴を生かした教 育活動の向上・推進を行う	ア H P や印刷物等により、フレックススクールの教育活動内容を積極的に発信する。 イ 中学校訪問や学校説明会等広報の拡大を図り、保護者や地域社会との連携を推進する。	A
	8 教職員の資質能力の向 上とともに働き方改革に より超過勤務時間の減少 を図る	ア 校内研修を充実させるとともに、校外の研修に積極的に参加し、教職員としてのスキルアップを図る。	B

※ 評価規準： A 十分達成できた B 概ね達成できた C やや不十分である D 不十分である

別紙様式 2 (高)

3つの方針			具体的目標	評価		次年度（学期）への主な課題	
「三つの方針」スクールポリシー	「育成を目指す資質能力に関する方針」 （グラデュエーション・ポリシー）	基本的な生活習慣を身につけた人材	A	B	・保護者、外部関係機関との連携を強化し、生徒が良好な人間関係を構築できるよう支援すること。		
		豊かな人間性を備えた人材	B				
		社会人としての教養と規範意識を身につけた人材	B				
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 （カリキュラム・ポリシー）	生徒一人一人の多様な学習ニーズに対応した学習活動とキャリア教育による生徒の進路実現 ・習熟度に応じた選択科目の設定（基礎基本を目指す科目、発展的な考察を深める科目） ・興味・関心に応じた選択科目の設定（活動的な科目） ・学んだことを発表したり、試したりする場の設定（文化祭による発表や展示、資格試験や検定試験）	B		タブレットを活用した授業の研究を進め、自学自習は出来るように支援する。		
		「入学者の受入れに関する方針」 （アドミッション・ポリシー）	思いやりを持ち、自他を尊重して信頼を築こうとする生徒			B	・学校の教育活動全体を通じ、継続して社会性、人間性を磨く生徒。
			基本的な生活習慣を身につけ、健康的な生活を心がける生徒			A	
	学校や社会の規範を守って日常生活ができる生徒		B				
	意欲的・主体的に学習や行事に取り組める生徒		B				
	自己実現に向けて日々努力する生徒		B				
	評価項目	具体的目標	具体的方策		評価		次年度（学期）への主な課題
教科指導	国語	充実した授業を展開する。	生徒の学習意欲を向上させるために、実態に合った授業ができるように工夫をする。	A	B	生徒一人一台端末を持つようになったので、昨年度に比べて ICT 機器を授業内で活用する場面が増えた。来年度は様々な生徒に対応するために、教員間の連携を密にし、TTの質を上げていきたいと思う。	
			科目担当者間での連携を密に行い、学習状況が不十分な生徒へのサポートを充実させる。	B			
			ICT を積極的に取り入れ、生徒が主体となる授業作りに努める。	A			
		基礎学力の向上を図る。	漢字検定や文章検定の資格取得を奨励し、基本的な学習習慣を継続させるよう努める。	B			
			学び直しの授業を通し、集中して学習に取り組む態度を育成するとともに、思考力・判断力・表現力を育むために必要な基礎的な学力を身に付けさせる。	A			
	地歴・公民	基礎学力の向上を図る。	身近な社会的事象などをとりあげ興味を持たせる。基礎・基本な事項は繰り返し学習する時間を設け知識の定着をはかる。	B	B	教員間で教材をデータ化し、さらに共有できるようにしていきたい。	
			休み時間や放課後に、生徒からの質問の時間を設ける。	C			
		分かりやすい授業を展開し、学習意欲の向上を図る。	自作教材やマルチメディア教材などを活用し、授業への興味・関心を高める。	A			
			評価法の改善などを通して、生徒の良い点を伸張する工夫に努める。	B			
	数学	基礎学力の向上を図る。	スモールステップの授業を実施し、個々の能力に応じて小・中学校の復習から高校数学の応用問題まで幅広く取り扱う。	B	A	・新課程に向けて、習熟度に応じた選択授業の履修ができるようにする。 ・ICT を活用した授業への取り組み。 ・授業の進度（ステップの時間の確保や内容の精選） ・数学検定等の合格率をあげる。	
		生徒の興味・関心を高め、学習意欲の向上を図る。	興味・関心を高めるような学習内容や教材を工夫する。	A			
			関心の高い生徒に対し、個別指導や課題等により、数学検定の実施や更なる意欲の向上に努める。	A			

※ 評価規準： A 十分達成できた B 概ね達成できた C やや不十分である D 不十分である

別紙様式 2 (高)

評価項目			具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科指導	理科		基礎学力の向上を図る。	ティームティーチング指導をとおして、個に応じたきめ細やかな指導を行い、生徒の理解力を向上させる。	A	A	・新型コロナウイルス感染症拡大の渦中、どのように実験観察を行うかを考えていく必要がある。
				中学理科の内容との関連を意識させ、系統的な知識が身につくような授業を展開する。	A		
				問題演習によって、数値処理の力を伸ばす。	B		
			生徒の興味・関心を高め、学習意欲の向上を図る。	生徒の実態に応じた授業内容・授業方法を精選・工夫することで学習意欲の向上を図る。	A		
				日常生活と結びつく身近なトピックを授業に取り入れ、その際に視聴覚教材や ICT などを効果的に活用する。	A		
				観察・実験を積極的に授業に取り入れることで学習内容への興味・関心を高める。	B		
	保健体育	体育	生徒の実情を把握したうえで、運動量を確保し、かつ生涯を通じて取り組むことができるスポーツを見つけさせる。	生徒の健康状態、体力、嗜好を把握し、かつクラスの実態に応じて運動種目やルールを選定し、生徒が意欲的に運動に取り組めるような環境作りに努める。そして、年間5種目の競技には必ず触れさせることを目指し、そのなかで実施生徒が自ら動き、学ぶことや教え合う楽しさや達成感を覚えるよう授業を実践していく。	A	A	・体育的行事として実施してきた筑波山登山で事故が起ってしまったことから、代わりの行事への変更を含めた実施の是非を検討する。
			体育着を着用の指導の徹底を図る。	体育着を着用して参加する生徒の意欲をしっかりと評価し、全員が楽しく授業に取り組めるよう、根気強く指導を行う。	A		
		保健	正しい意志決定・行動選択ができる能力の基礎を身に付けさせる。	社会で起こっている具体的な事例をあげながら学習指導を行う。また、調べ学習などの実技・実習等を行い、実践的な能力を高める。また、ICTの導入から電子黒板など利用し、必要な情報を視覚的に手に入れる方法手段を身につけられるようにする。	B		
			学ぶ姿勢を身に付けさせる。	望ましい授業態度が身に付くよう根気強く指導するとともに毎学期ごと合計2回の課題の提出を徹底させる。	A		
	芸術	音楽	芸術を愛好する心情を育てる。	芸術的な活動を通して感性を高め、実生活においても芸術を鑑賞する心情を育成する。自主的に芸術を楽しむ態度を育てる。	B	A	・歌唱の授業がほぼできない状況であったので、来年度はしっかり取り組みたい。（音） ・生徒側からのより主体的な創作への意欲向上を目指す。（書） ・作品を持ち帰らせる際にその場で捨てようとする生徒がいなくて良かったが、道具の使い方や後片付けについては次年度も指導していきたい。（美）
			基礎技術の確実な定着を図る。	実習においては個々のレベルに応じた丁寧な指導を心がける。	A		
			個性豊かな表現を伸ばす。	複数の種類の楽器に触れる機会を設定し、芸術性のある創造力・表現力を身に付けさせる。	A		
		美術	美術への興味、関心を高める。	日常と関連させた課題設定と導入を行い、題材への興味をもたせ、授業課題の提出を100%できるように意識を高める。	A	A	
			つくる喜びを味わわせる。	個別指導を通して生徒一人一人が表現したい内容を理解し、個に合わせた技術支援を行う。	A		
			授業を受ける態度を身に付けさせる。	自ら準備・片付けをし、制作用のための道具や自他の作品を丁寧に扱うよう指導する。	B		
		書道	小筆、大筆の特徴に合わせた書に取り組ませる。	小筆、大筆の特徴に合わせた書の表現を確認させて、創作の意欲を持たせる。臨書から漢字仮名交じり文、実用の書へ発展させる。	A	A	
			作品を完成させる喜びを味わわせる。	文化祭、学年末に合わせ、作品づくりを目指す。生徒の希望に合わせ、色紙や篆刻を試みる。	A		
			授業を受ける態度を身に付けさせる。	きちんとした服装を整え、自ら準備、片付けの徹底を指導する。前時後すぐに準備、片付けは次時の授業に間に合わせる。	A		

※ 評価規準： A 十分達成できた B 概ね達成できた C やや不十分である D 不十分である

別紙様式 2 (高)

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科指導	英語	基礎学力の向上を図る。	「コミュニケーション英語Ⅰ」や「基礎から学ぶ英語」の授業等を通して、中学英語の既習事項との関連性を意識させながら基礎的・基本的な「読むこと」「書くこと」の能力の向上を図る。	A	A	・オンライン学習を含め、ICTを活用した授業のさらなる充実。 ・コロナ禍での発音や音読練習の展開。 ・新課程に即した授業展開の工夫。 ・実用技能英語検定受検者数の増加、及び合格率の向上。
			授業を通して、日常生活に結びつく基礎的・基本的な語彙の数を増やしつつ、語彙運用能力の向上を図る。	A		
			観点別評価の工夫を通して、評価と一体化した指導を行い、基礎学力の向上を図る。	A		
		音声面を重視しつつバランスの取れた4技能の向上を目指す。	教科書の英文音読練習を繰り返し行うことで、英文に触れた際に自分自身で正しい発音やイントネーションを再生し内容を理解する能力の向上を図る。	B		
			ALTと連携のとれたティームティーチング授業で生きた英語に直接触れさせ、「聞くこと」「話すこと（発表、やり取り）」の能力の向上を図る。	A		
			ICT等を活用し、教科書に出てくる文法や重要な表現を、具体的な言語使用場面と結びつけて指導をする。	A		
	家庭	学習に取り組む姿勢を育成する。 協調性を持ち、基礎学力を身に付させる。	始業・終了時の挨拶・服装指導を徹底させる。学習用具の準備や実習の準備、後片付けを習慣付ける。	A	A	生徒一人一人の学習意欲の向上と基礎学力の定着ができた。さらに向上を目指したい。
			興味・関心を引く教材を使用し、基本的な被服製作・調理実習を楽しみながら取り組ませ、日常生活が改善できる知識技術を指導する。	A		
	情報	パソコン操作技術の向上を図る。	WordやExcelの基本操作を習得させる。	A	A	プログラミング教育の必修化に伴い、プログラミング教材の購入と準備。 プログラミング教育に必要なプログラミング言語等の研修の必要性。
			PowerPointの基本操作を習得させる。	A		
(教科専門) 指導	総合	社会生活や職業生活に必要な基本的能力や態度と望ましい勤労観・職業観を育成する。	準教科書「産業社会と人間」を活用することにより、自己理解を深めつつ進路について多面的に考え、職業人として社会に貢献するために必要となる基礎知識や態度を身に付けさせる。	A	A	「産業社会と人間」で扱った内容を他の科目・領域で扱い補完する必要がある。年初の目標はほぼ達成された。
		現代社会への興味関心を高めさせる。	新聞を用いて現代社会の事実や課題を知り、インターネットや書籍を用いて調べることで自分の生きる社会についての興味関心を引き立たせ、進路選択の一助とする。	A		
		自己理解を深めさせる。	青年期の心理について知識を得るとともに、コミュニケーション能力向上を図る方法を体験的に学ぶことにより、自己の在り方・生き方について深く考えさせる。	A		
		日本や中国の文化について理解を深めさせる。	日本の伝統芸能や郷土の文化に触れることや、中国の言語と文化について学ぶことを通して、より広い視野を身に付けさせる。	A		
	商業	ビジネス教育の充実を図る。	経済を理解し、ビジネスに活かそうとする能力を育成する。	B	B	計算力、統計分析力の向上
		経済学について理解させる。	ミクロ経済、マクロ経済を対比させ、市場のあり方について考え、経済活動の実際を学ばせる。	B		
		簿記会計能力の基礎力充実を図る。	簿記の基礎基本を理解させ、商業計算能力の向上を目指す。会計書類を活用できるようにする。（検定合格者数を数値目標とする）	C		

※ 評価規準： A 十分達成できた B 概ね達成できた C やや不十分である D 不十分である

別紙様式 2 (高)

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科 指導 （専 門）	家庭	衣食・保育への興味・関心を高める。	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートを通して、食に対する興味・関心を持てるようにし、望ましい食生活が実践できるようにする。	A	A	意識改革、学びを生活に生かす実践力が身についた。さらにより発展的な内容も取り入れたい。
			日常生活で関わる衣服の管理、簡単な補修ができるようにする。将来の保育環境を自ら適切に考えられるようにする。	A		
		実習に望む態度を身に付けさせる。	きちんとした服装を整え、自ら準備、片付けの徹底を指導する。	A		
教務		多様な生徒に対応し、基礎学力の定着を図りながら、社会を生き抜く力を育成する。	基礎学力向上のための新たな教育課程編成を研究し、個に応じた指導（多様な選択科目、少人数、T T、I C T活用等）の実践による、指導方法を開発する。	B	B	多様な生徒に対応した授業の研究 タブレットを活用した授業の研究
			教員間での授業参観を行い、特別な配慮を要する生徒を含めた多様な生徒に対応し、生徒の学習行動を引き出す授業方法を互いに研究する。	B		
		フレックススクールの広報活動の充実を図る。	学校案内やホームページに工夫改善を加えるとともに学校説明会を通して、フレックススクールとしての本校の役割についての広報活動を行う。	A		
		フレックススクールとしての教育活動の充実を図る。	3部制単位制普通科高校として教育活動の充実・発展が図れるよう、次期学習指導要領に沿った教育課程の運用方法、学校行事の運営方法等について研究する。	B		
進路指導		生徒一人一人の希望と適性の理解と把握に努める。	進路希望調査、適性検査等をもとに個人面談を早期かつ継続的に行い、個々の適性を把握し、進路希望の熟成に努める。	B	B	・進路バス見学会から全年次進路ガイダンスの流れは、就職希望者にとって進路を決めるうえで効果があった。来年度はインターンシップを加えた一連の行事をより計画的に行いたい。 ・進学指導に関しては、国立大学希望者に対する個別指導が定着してきているので、引き続き支援していきたい。
			継続的にキャリアカウンセリングを実施し、生徒理解を深めるとともに進路意識と理解の向上を図る。	B		
		望ましい勤労観・職業観の育成を図る。	大学・専門学校等の担当者や周辺事業所・職業安定所・地域福祉課等と連携し、ガイダンスや進路講演会等を実施することで自分の生き方を考えさせるとともに、望ましい勤労観・職業観の育成を図る。	A		
			職業体験を推奨し、様々な職種への理解を深めるとともに社会人として相応しい資質を育む。	B		
		進路情報の提供と進路開拓を図る。	各年次と生徒情報を共有し、個々の生徒の進路希望に応じた適切な情報提供を行う。	A		
			生徒の個性に応じた就職・進学先を確保するため、教員による訪問見学・説明会出席を積極的に行う。	B		
		生徒の個性・適性・希望等を把握し、個に応じた指導の充実を図る。	各年次と連携を密にし、必要に応じて進路指導主事による個別面談を行うなど個々の生徒の能力・適性に応じた進路指導を実践し、その実現を目指す。	A		
			進路ガイダンスや進路見学会をとおり、多様な生徒の進路希望に合わせた意識付けを図る。	A		
		就労支援の充実を図る。	特別支援学校や関係機関との連携を密にし、保護者・生徒の要望・実情に合った情報提供を行う。	B		
			2年次での職業体験をとおり、個々の特性と職場での適合を図る一助とする。	B		

※ 評価規準： A 十分達成できた B 概ね達成できた C やや不十分である D 不十分である

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
生徒指導	生徒指導体制の一層の充実を図り、基本的生活習慣の確立に努める。	いじめの未然防止、早期発見、早期解消を図る措置を講じ、関係機関との連携を図りながら適切に対応する。	A	・生徒が良好な人間関係を構築できるよう支援すること。 ・保護者、外部関係機関との連携を強化し、生徒の成長を支援すること。
		服装頭髪指導・交通安全指導の強化期間を設定し、自己指導能力を育成する。	B	
		登校指導・校内外巡回を行い、声かけ指導を継続する。	A	
		公正・公平な指導を基に、個に応じた生徒指導の内容や方法を工夫する。	A	
	生徒指導に関する教員間の共通理解を深める。	定期的に生徒指導部会を実施し、情報を共有する。	A	
		生徒指導相談員の助言を有効活用して、日常の指導に生かす。	A	
		校内研修会を通して生徒指導に関する共通理解を深める。	A	
特別活動	生徒が自主的、主体的に取り組む生徒会活動を促進する。	生徒会本部役員の月 1 回以上の定例会を実施し、課題に対する具体的な解決策を話し合う。また、目安箱を設置し、広く生徒の意見を取り入れた生徒会活動を促進する。	A	・コロナ禍で簡略化の多かった各行事を、以前のように活発なものにする準備を怠らない。 ・今年度縮小した行事を元の状態に戻す。 ・生徒自身が積極的に取り組む環境を作る。 ・翔輝祭等の学校行事を欠席する生徒がいるので、全員参加型の企画を用意できれば。
	生徒会が中心になり部活動や委員会活動、HR 活動の活性化を図る。	生徒会が中心になって部活動や委員会活動、HR 活動と連携することで、生徒一人一人が学校生活を支える一員として、具体的な役割を担えるようにする。	A	
		HR 活動を中心としてキャリア・パスポートを活用し、教科学習、教科外活動、学校外の活動の 3 つの視点で学びを振り返り、将来への展望が持てるようにする。	A	
	よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会参画及び自己実現に繋がるように、行事を企画し、運営する。	各行事で前年度の反省を有効に生かして、午前・午後・夜間、各部の生徒が支障なく活動できるようにし、フレックス制に合った実施方法を検討していく。	A	
		コロナ禍でも感染防止を心掛けながら行事を運営し、校内での感染者ゼロを目指す。生徒一人一人が活躍できる場を増やし、一層の自己肯定感を醸成する。	A	
保健厚生	心身の健康の保持増進を図る。	各種検診を必ず受診するよう呼びかけ（尿検査の受検者率を 9 割目標）、自分の健康を意識させる。	A	・尿検査の提出期限を守れない生徒が若干名いたので、次年度は 0 人にする。 ・保健室と教育相談室との情報共有 ・年次を超えたすべての授業担当者への情報共有。情報共有する場・方法の検討。 ・研修参加者を増やすための管理職と研修の取り扱いについての検討。 ・すべての授業について観察・フォローできる雰囲気づくり。
		生徒が安心・快適に学校生活がおくれるように、救急処置・救急体制に万全を期す。	A	
		教育相談・健康相談の充実とともに、必要な場合は、関係専門機関との連携を図り適切に対応する。	A	
		感染症対策を実施し、感染防止に努める。	A	
	保健教育の充実とともに、生きる力を育む。	薬物乱用防止講話や性教育講演会を年 1 回実施し、生徒の問題行動の防止に努める。	A	
		美化委員・保健委員会活動において、生徒の活動の場を多く作る。	B	
		保健室に配置する図書・資料・掲示物の充実を図り、生徒が健康・安全の意識を高めるために役立てる。	A	
	学習しやすい環境を整える。	学校安全の確保に努め、破損箇所・危険箇所について事務室と連携して迅速に対応する。	A	
		ゴミの散らかし防止を呼びかけるとともに、分別処理を徹底させる。	A	
		快適な学習環境を維持するため、生徒職員一体となって清掃活動に取り組む。	A	
	個別支援の充実を図る。	学校内における情報の引き継ぎを行い、校内支援体制を充実させる。	B	
		特別支援教育巡回相談や校内研修会を年に 2 回実施し、支援の方法を学ぶ機会を増やす。	A	
		スクールカウンセラー、キャンパスエイド、スクールソーシャルワーカーと適切に連携を図る。	A	
		特別支援教育コーディネーターと協力し、これまでの生徒に関する情報や授業観察等から気になる生徒の状況を把握する。	A	

※ 評価規準： A 十分達成できた B 概ね達成できた C やや不十分である D 不十分である

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
渉外	P T A 諸活動に対する保護者の参加率の向上を図る。	文化祭、研修会等の機会を通じて保護者間及び教職員と保護者との間の親睦を深める。	B	B	PTA 役員の選出が大変難しく継続的な P T A 活動をどのように維持していくか。
		入学式、合格者説明会において、P T A 活動への参加と協力を呼びかける。	A		
		本部役員と協議して、評議員会や各委員会の運営の円滑化を図る。	A		
	P T A における委員会活動の活性化を図る。	広報委員会では、保護者の意見をできるだけ取り入れて運営する。	A		
		生徒指導委員会では、交通安全の日と一声運動を実施する。	B		
図書	居場所としての図書館づくりに努めて、生徒・職員双方の図書館の利用促進を図る。	自律神経を整える音楽を流したり、リラックスできるアロマオイルを焚いたりして、居心地のよい図書館をつくる。	A	A	・今年度は、居場所としての図書館づくりに着手することができた。次年度も試行錯誤しながら、継続・推進していきたい。 ・学習指導における図書館の活用に課題が残った。次年度は司書教諭を中心に学習指導と図書館の結合に取り組みたい。 ・図書館で開催する各種行事について、多くの生徒が参加できる時間帯の設定と図書部以外の教職員の理解を得て協力体制を敷くことが課題である。
		季節に合わせた展示やレイアウトの工夫を行うことで、毎日 10 人以上の生徒が図書館を利用することを目指す。	A		
		必要な視聴覚教材・機材を購入し、授業における図書館活用を促す。	B		
	蔵書の充実に努め、図書や読書に親しむ態度の育成を図る。	書籍・雑誌等の情報収集に努め、適切に図書選定を行い、蔵書を充実させる。	B		
		図書部員による読み聞かせを年に 3 回程度開催し、読書に親しむ態度を醸成する。	A		
	図書部員の業務負担を軽減するとともに、図書館経営に関する研修を行う。	図書だよりを年に 5 回程度発行し、図書や読書に親しむ態度を育成する。	A		
		部長を中心に不必要な会議・書類作成等の雑務を減らし、図書部員の業務負担を軽減する。また、勤務時間外の業務は行わないことを部内で徹底する。 高教研図書部の研修会への参加、学校図書館司書教諭講習の受講など、図書部員各自が積極的に研修に励み、図書館経営に関する知見を深めるように努める。	A		
				B	

※ 評価規準： A 十分達成できた B 概ね達成できた C やや不十分である D 不十分である

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
情報部	校務用PCの保守管理に努める。	使用者による定期的なOSのアップデートを実施できるよう情報提供を行う。	B	A	・共有ディスクの二重化を計画。 ・生徒用ネットワーク上に共有サーバを準備。 ・教員対象のセキュリティ意識向上をはかる。
		全職員一人一台の校務用PCの整備に努める。	A		
		日常業務が円滑に実施できるよう、日々のトラブル対応に努める。	A		
		最新機器の状況等についての情報収集に努め、適切な機器選定を行う。	A		
	教育用情報機器の保守管理に努める。	電子黒板等、教室での教育用情報機器の利用環境の整備を図る。	A		
		情報機器を活用した教育活動のあり方についての研究を行う。	B		
		必要な機器の導入・整備・更新を適切に行う。	A		
	教育用タブレット機器の保守管理に努める。	学校で保有するiPad機器の定期的な保守・点検を行う。	A		
		教育用必要なソフトウェアの調査・研究、および導入・利用を図る。	B		
		快適なネットワーク環境の整備を行い、必要な保守点検を行う。	A		
		定期的なソフトウェアの更新に努め、日常利用上のトラブルの減少を図る。	A		
	校内ネットワーク環境を整備し、適切な保守管理に努める。	各種無線ネットワーク機器の定期的な保守点検を行い、トラブルを未然に回避する。	A		
		万が一のトラブル発生に対しては、原因を特定し、必要な解決を図る。	A		
		学内有線ネットワーク機器の保守点検を行い、必要な機器の入れ替えを行う。	B		
一年次	基本的生活習慣の確立を図る。	登校指導時の声掛け、休み時間の観察、生徒面談などとおして状況把握及び生徒理解に努める。	A	A	・時間を守って行動することができない生徒が散見されたため、徹底する必要がある。 ・ICT機器を持ってこない生徒への指導が必要。
		家庭との連携を密にし、年次集会などで組織的に服装・頭髪指導を行うことで、規範意識を高める。	A		
		教室・廊下の美化に努め、生徒の生活環境を整える。	B		
		情報共有を密にし、年次全体の意志を統一して教科担任を含めて一貫した指導を行う。	A		
	学習意欲を高め、基礎学力の向上を図る。	すべての生徒が安心して落ち着いた環境で授業を受けられるように授業態度の指導を徹底する。	B		
		ファーストステップ授業などで学び直しの機会を設け、学習意欲の向上を図る。	A		
二年次	基本的生活習慣を定着させる。	登校指導、休み時間、生徒面談などとおして状況把握及び生徒理解に努め、問題の早期対応を心掛ける。	A	A	・学校の教育活動全体を通じ、継続して社会性、人間性を育む。 ・資格が一つも取得していない生徒が、一人でも少ないように指導する。
		家庭と連携をし、頭髪や服装などの規範意識を高めながら、社会人として必要となる態度を育てる。	A		
	多様な価値観を育み、自己理解、他者理解ができるようになる。	総合的探究の時間やLHRを通して、社会性を育み、豊かな人間を育む。	B		
		授業や学校行事などを通して、コミュニケーション能力を育て、良好な人間関係を築けるようにする。	A		
	学習意欲を高め、自主的・主体的に学習に取り組む態度を育てる。	すべての生徒が安心して落ち着いた環境で授業を受けられるように授業態度の指導を徹底する。	A		
		英語検定、漢字検定などの資格取得を目指し、意欲的に学習に取り組む意識を育て、生徒が一つ以上の資格を取得する。	B		

※ 評価基準： A 十分達成できた B 概ね達成できた C やや不十分である D 不十分である

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
三年次	基本的生活習慣の定着とともに社会生活に必要な素養を身につけさせる。	時間厳守等の基本的生活習慣を定着させるとともに、礼儀作法を身につけさせ社会で活躍できる生徒を育成する。	B	A	4 年次になる生徒の数は少ないが、能力の差や様々なことを抱えている生徒が多い為、早い段階からの目標設定が必要であり、それに向けての指導方針を早期に考え指導していく必要がある。
		生徒面談や家庭との連携を密にし、状況把握や生徒理解に努め、問題の早期対応を心掛ける。	A		
		指導重点項目を設定するなど、年次全体の意識を統一するとともに年次職員が連携・協力をして、一貫した指導を行う。	A		
	自主的・主体的に学習に取り組む態度を身に付け、進路実現に向け積極的に行動する力を身につけさせる。	総合的探究の時間を進路別コースに分け、それぞれの課題に対して、自主的・主体的に解決できる資質能力を身につけさせる。	A		
		生徒・保護者・教員が密に連携をし、生徒の進路実現に向けてより良い選択ができるようサポートする。	A		
		実地体験を伴った茨城の魅力をもとに、自らの職業観を広げ、進路実現に生かせるよう支援する。	A		
四年次	社会人としての自立に必要な素養を育む。	少人数の利点を生かし、生徒の理解度や関心に応じた授業展開を工夫する。社会人として恥ずかしくない一般教養を身につけ、卒業後も学び続けることのできる意欲やスキルを涵養する。LHRにおいて、一般常識の問題集に取り組む機会を10回程度確保する。	B	B	進路活動継続中の者、卒業を予定していない生徒について、必要に応じてハローワーク、SSW等の支援を仰ぐことができるよう、連携をとる。
	多様な特性と進路希望をもつ生徒に対応し、学校内外の人材を活用して柔軟な指導を行う。	保護者との連絡を密にし、時間がかかっても、生徒自身が悔いのない選択ができるよう忍耐強く支援する。指導方針や重要事項を伝達するため、PTA 総会・保護者面談等の機会を利用し、年次からの文書を3回以上発行する。必要に応じて学校外の機関とも連携を図る。	A		
	社会人として通用する自己管理能力と適切なコミュニケーションスキルを養う。	遅刻や欠席に対する指導を継続し、各生徒が健康的な生活リズムを確立できるよう促す。加えて、これまで以上に社会の目を意識し、身だしなみや挨拶・言葉遣いといったマナーの向上に努める。毎月1回の頭髪・服装指導を実施する。	B		

※ 評価規準： A 十分達成できた B 概ね達成できた C やや不十分である D 不十分である